

道徳科学習指導案

- 1 学級 第4学年1組 男子8名 女子12名 計20名
- 2 主題名 「みんなが気持ちよく」 C 規則の尊重
- 3 ねらい ルールの意義や目的について話し合い、みんなが気持ちよく暮らすためのルールを考えるを通して、相手や周りのことを考えて、ルールを自ら進んで守ろうとする道徳的判断力を育成する。
- 4 教材名 「どっちがいいか」
- 5 主題設定の理由

○主題観

約束や社会のきまりは、それを守ることによって個人間や集団、社会を構成する者どうしの信頼や連帯、秩序、さらには社会の機能を保持するために必要である。社会の一員として社会の法や、きまりが個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあるということを理解し、それを進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たすという精神をしっかりと身に付けることは大切である。

よりよい人間関係づくりや人間関係における規範意識について考えさせるためにも、きまりは「何のため」「だれのため」という意義を理解し、そのよさに対して心を動かすことで、それらを守ろうとする力を育成するため本主題を設定した。

○児童観

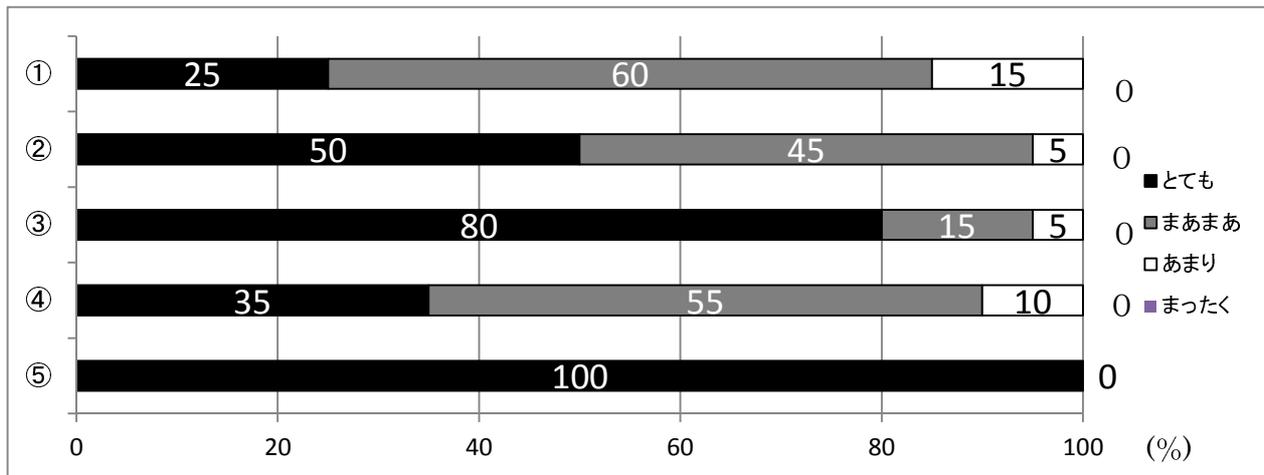
本学級の児童は、きまりを守らなければいけないと全児童が思っている。学校や学級のきまりを守っている児童も多い。しかしクラス全員遊びでは、先にルールの確認を行ってから全員遊びをするも途中で勝ちたいという気持ちが大きくなり、口々に言い争いになることがある。また学校のルールにおいても廊下を走る児童が見られ、これくらいならいいやという気持ちで生活している児童も見られる。

本主題を学習するに当たり、事前に次のようなアンケートを行った。

【アンケート項目】

①	学校や身の回りのルールを守っている。
②	人のことを思いやり、親切にしている。
③	人の気持ちがわかる人になりたいと思う。
④	あなたは、よいことと悪いことを判断し、自分が正しいと思ったことを行っている。
⑤	ルールを守ることは大事なことだと思っている。

【アンケート結果】



事前に行ったアンケートでは、100%の児童が「ルールを守ることは大事なことだと思っている。」と回答している。また、95%の児童が「人の気持ちがわかる人になりたいと思っている。」と回答しており、相手や周りの気持ちを考え、ルールを守って仲よく過ごしたいという思いを持っているといえる。しかし、「学校や身の回りのルールを守っている。」と回答した児童は85%であり、15%の児童はきまりを守れていないと回答している。本教材を通して自己中心的な考えから、他者の気持ちを考えよう、分かろうとする意識を高め、きまりを守る実践意欲の向上につなげていきたい。

○指導観

本教材は、社会のきまりがない自由気ままな生活と、何もかもにきまりのある生活という極端な例が示されている。具体的かつ対照的に描かれたきまりの有無を比較・検討することによって、その目的やよさについて深く考え、理解することができる教材である。

本時は、「ルールは何のためにあるのだろうか。」を課題として設定する。まず、ルールがある時とルールがない時で対比させ、ルールは必要かどうかネームプレートを活用して全体の傾向を共有する。その後、教材を活用し「あさひ村」でルールを作ってみたがうまくいかなかったことから、どのような話し合いがされていたかをクラスで話し合い、ルールを守る意義について考えさせる。一人一人が相手や周りの人の立場に立ち、よりよい人間関係を築くことや集団の向上のために守らなければならない約束やきまりがあることに気づかせたい。中心発問では、「なぜ人はきまりを守ろうとするのか」とし、ルールが「何のため」「だれのため」にあるのか、きまりを守ることによって生活がどのように変わるのかについて深く考えさせたい。また、必要に応じて、対話活動を有効に行っていききたい。その際、ユニットノートを活用し、教材と自分自身の生活を重ね合わせることで、相手や周りのことを考えて自ら進んでルールを守るよさについても考えさせていきたい。

本教材に含まれていると考える道徳的価値は、次のとおりである。

【この教材に含まれる道徳的価値】

- ◆ 相手の立場に立って意見をよく聞きくことが大切である。
- ◆ みんなにとってよい方法を考えることが自分にもよいことが分かる。
- ◆ きまりやマナーを守って生活すると、相手とよい関係になる。

道徳的判断力を育成する場面としては、中心発問「どうして人はきまりを守ろうとするのだろうか。」を設定した。きまりやマナーを守って生活することを通して、周りの人とよい関係になることや、みんなにとって良い方法を考えることが大切だということに気づかせ、本教材に含まれる道徳的価値に気づかせ、よりよい生き方を考える道徳的判断力を高めたい。

また、きまりの有無に対する是非から、きまりの目的、よさの解明へと多面的・多角的に思考を進めさせていきたい。同時に、きまりの他律的・受動的な理解から、自律的・能動的な理解への向上を図りたい。

本学級の児童は、9月から以下のようなユニットを組み、学習に取り組んでいる。本時は、第3時にあたる。ユニット第1時で取り上げた、友だちのよさを見つけ、友だちと理解し合い、信頼関係を築いていこうとする生き方、第2時で取り上げた、先生や学校の人々を敬愛し、みんなで仲良く協力し合って、明るく楽しい学級や学校をつくらうとする生き方を踏まえ、全体を貫くテーマ「仲良く」に迫っていきたい。

【ユニットとの関連】ユニットテーマ「仲よく」

	教材名	内容項目・主題名	ユニットとの関連
第1時	ブラジルからの転校生	B 友情, 信頼 「よい友だちになるために」	互いの良さを認め合い、友だちの良い面に目を向けさせて生活するよさを理解する。
第2時	えがおの花大作戦	C よりよい学校生活, 集団生活の充実 「明るく楽しいクラス・学校づくり」	明るく楽しい学級や学校をつくるために、自分にできることを進んで行うよう考える。
第3時 (本時)	どっちがいいか	C 規則の尊重 「みんなが気持ちよく」	相手や周りのことを考えて、ルールを自ら進んで守ろうすることを理解する。
第4時	貝がら	B 相互理解, 寛容 「相手の事を理解する」	自分と友だちの違いを認め、理解しようとする心情に触れる。
第5時	良太のはんだん	C 公正, 公平, 社会正義 「公正な態度で」	誰に対しても分け隔てなく、公正, 公平な態度で接するよさを学ぶ。

6 他の教育活動などとの関わり

小学校 第1学年及び第2学年 C 規則の尊重
約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

小学校 第3学年及び第4学年 C 規則の尊重
約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

道徳

- ・ 7月「自分たちにできるエコ活動」 10月「図書館で」

算数

- ・ 5月「1けたでわるわり算の計算」 10月「整数の計算のまとめ」

社会

- ・ 9月「なくそう，こわい火事」

理科

- ・ 5月「電気のはたらき」 12月「みんなで使う理科室」

体育

- ・ 4月「かけっこ・リレー」

学級活動

- ・ 5月「友達と力を合わせて」

小学校 第5学年及び第6学年 C 規則の尊重

法やまじりの意義を理解した上で進んでそれらを守り，自他の権利を大切にし，義務を果たすこと。

中学校 C 遵法精神，公德心

法やまじりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよいあり方について考え，自他の権利を大切にし，義務を果たして，規律ある安定した社会の実現に努めること。

7 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (○基本発問 ◎中心発問 ●補助発問)	○指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 学校生活のルールについて考え，何のためにルールがあるか問題意識をもつ。	○学校の中でのルールには，どんなルールがありますか。 ・廊下を走らない。 ・給食を残さない。 ・時間を守る。	○ねらいとする価値への方向付けをすることで児童に課題意識を持たせるようにする。
		課題 ルールは何のためにあるのだろうか。	

8 板書計画

どっちがいいか

ルールは何のためにあるのだろうか

ルール

- ・ろう下を走らない。
- ・登校時間を守る。
- ・ペットボトルは持ってこない。
- ・給食を残さない。

ルールなし

ルールあり

ルールは何のため？

「あさひ村」会議

- ・安全
- ・仲よく
- ・幸せ
- ・みんな

なし

あり

自由

ある

・お互いいいところが

・多すぎて…

・幸せ

・争いが無い

「あさひ村」会議

- ・ルールの変こう
- ・あぶない事をしない